

「用字・用語の表記例」 「新訂 公用文の書き表し方の基準（資料集）」 平成28年5月  
 仙台市教育局教育人事部教育センター

◎ 以下の表記例は、公用文作成の基準として作成したものである。利用に際しては、原則として見出し語の表記に従うことが望ましい。

【 略号 : 「 」→適切な使用例 (参)→参考表記 (×)→不適切な表記や読み (接)→接続語の表記 〈 〉→読み】

<b>【あ】</b>	挨拶 あいさつ(参)	楷書 「楷書で書く」	爽やか さわやか(参)
	曖昧 あいまい(参)	換える 「品物を取り換える」	<b>【し】</b>
	合う 「計算が合う」	替える 「観客を入れ替える」	仕方 「仕方がない」
	会う 「客と会う」 逢う(×)	代える 「選手を代える」	叱る 「弟を叱る」
	遭う 「不測の事故に遭う」	係る〈かかる〉 「標記に係る・・・」	従う 「法律に従う」
	あえて 敢えて(×)	関わる 「命に関わる」	したがって (接)
	諦める あきらめる(参)	書き初め 書初め(参) 書きぞめ展(参)	叱責 「叱責を受ける」
	空く 「席が空く」	描く〈かく、えがく〉	竹刀〈しない〉
	開く 「幕が開く」	陰ひなた 「陰ひなたなく働く」	芝生
	上げる 「効果を上げる」	風邪 「風邪を引く」	締切り、締め切り ×切(×)
	挙げる 「手を挙げる」	片仮名	～中〈じゅう、ちゅう〉
	懂れる あこがれる(参)	片付く 片づく(参)	修得 「単位・課程を修得する」
	明日く(あす)	片寄る 「隅に片寄る」	習得 「英会話を習得する」
	温かい 「心の温かい人」	偏る 「思想が偏る」	十分 充分(参)
	暖かい 「暖かい春の日ざし」	葛藤 「心の葛藤」	主旨 「文章の主旨」
	当たって 当って(参)	要 「扇の要」	趣旨 「改訂の趣旨」
	宛て 「恩師宛ての手紙」	彼ら 彼等(×)	上手〈じょうず〉
	充てる 「指導に充てる時間」	喚起 「意欲の喚起」	芯 「鉛筆の芯」
	あらかじめ 予め(×)	頑張る がんばる(参)	真摯 「真摯な態度で接する」
	表す 「言葉に表す」 表わす(参)	完璧 「完璧の備え」	親戚 「親戚づきあい」
	現す 「姿を現す」 現わす(参)	<b>【き】</b>	進捗〈しんちよく〉 「進捗状況」
	在り方 「指導の在り方」	危惧 「結果を危惧する」	親睦 「親睦を図る」
	あるいは 或いは(×)	機嫌 気嫌(×)	<b>【す】</b>
	併せて 「併せて支給する」	気付く 気づく(参)	隙間、透き間 すきま(参)
	あわせて、・・・ (接)	共同 「共同募金」	ずつ 「一つずつ」 づつ(×)
<b>【い】</b>		協同 「協同組合」	すなわち 即ち(×) 則ち(×)
	言う 「お世辞を言う」	協働 「協働型学校評価」	素早い 「素早い動作」
	いう 「Aさんという人」	<b>【く】</b>	すばらしい 素晴らしい(×)
	いかなる 如何なる(×)	下さい 「資料を下さい」	全て 総て(×) 凡て(×)
	椅子 いす(参)	ください 「話してください」	<b>【せ】</b>
	いただく 「見ていただく」	組合せ、組み合わせ	制作 「彫刻・工芸品の制作」
	一旦	来る 「人が来る」	製作 「机・機械の製作」
	いまだに 未だに(×)	くる 「寒くなってくる」	成長 「虫の成長」
	いろいろな 色々(×)	<b>【け】</b>	整頓 「整理整頓」
<b>【う】</b>		稽古 「踊りの稽古」	せりふ 台詞(×)
	伺う 「都合を伺う」	桁 「一桁の計算」	<b>【そ】</b>
	うかがう 「様子をうかがう」	蹴る 「ボールを蹴る」	雑巾 ぞうきん(参)
	受付 「受付係」	けんか 喧嘩(×)	掃除 「大掃除」
	打合せ、打ち合わせ	鍵盤 「鍵盤ハーモニカ」	袖 「舞台の袖」 そで(参)
	うなづく うなづく(×)	<b>【こ】</b>	そば 「そばに座る」 側(×) 傍(×)
	うれしい 嬉しい(×)	御 「御案内、御苦労」	反らす 「胸を反らす」
<b>【え】</b>		語彙 「語彙が豊富だ」	そろろ 揃う(×)
	餌 「餌をやる」	好意 「好意を寄せる」	<b>【た】</b>
<b>【お】</b>		厚意 「御厚意に感謝する」	他(くた) 「他国」
	おいて 於いて(×)	交代 「議長が交代する」	太鼓
	旺盛 「好奇心旺盛」	交替 「交替で勤務する」	類い たぐい(参)
	おおむね 概ね(×)	心地〈こち) 「心地よい」	ただし 但し(参)
	臆測、憶測	答え 答(参)	直ちに 「直ちに行く」
	行う 行なう(参)	応える 「期待に応える」	たち 「子供たち」 子供達(×)
	収める 「成功を収める」	～ごと 「1日ごと」 1年毎(×)	度(たび) 「度重なる依頼」
	修める 「小学校の課程を修める」	言葉 「言葉遣い」	ため 「皆のため」 為(×)
	各、各々〈おのおの〉	子供、 <del>子ども</del>	誰 「誰だろう」
	溺れる	頃 「若い頃」	<b>【ち】</b>
	及び 「A及びB」	<b>【さ】</b>	緻密 「緻密な計画」
	お礼〈おれい〉	遡る さかのぼる(参)	貼付〈ちょうふ、てんぷ〉
	御礼〈おんれい〉	挿絵〈さしえ) 挿画(×)	<b>【つ】</b>
<b>【か】</b>		挫折 「途中で挫折する」	追及 「責任の追及」
	か 「3か月」「2か所」ケ(×)カ(×)	沙汰 「御無沙汰」	追求 「理想の追求」
	箇 「三箇所」「数箇所」	様々 さまざま(参)	追究 「課題の追究」
	かい 「努力のかいがあつて」 甲斐(×)	更に 「更に検討する」	ついに 遂に(×)
		さらに・・・ (接)	作る 「米を作る」

造る 「船を造る」  
 創る 「文化を創る」  
 ～付け 「4月1日付け」  
 付ける 「習慣を身に付ける」  
 着ける 「衣服を身に着ける」  
 つける 「駆けつける」  
 拙い 「拙い文章」 つたない(参)  
 つづる 綴る(×)  
 都度 つど(参)  
 唾 「唾を吐く」  
 つまずく つまづく(×) 躓く(×)  
 爪 「爪を切る」

【て】

丁寧 「丁寧に客をもてなす」  
 出来 「出来がよい」  
 的確 適確(参)  
 適格 「教師として適格」  
 できる 出来る(×)  
 手立て 手だて(参)  
 手引 「指導の手引」  
 手引き 「手引きをする」

【と】

等(きょう) など(×)  
 同士 「友達同士で行く」  
 同志 「同志を募る」  
 通して 「～を通して」  
 通り 「青葉通り」  
 とおり 「次のとおり」  
 時 「時の流れ」  
 とき 「困ったときには」  
 友達  
 共に 「父と共に行く」  
 とともに 「技能を高めるとともに」  
 捕らえる 「鬼を捕らえる」 捕える(参)  
 捉える 「要点を捉える」  
 取扱い  
 取り扱う 「輸入品を取り扱う」  
 取組 「実践授業への取組」

【な】

なお 尚(×) 猶(×)  
 半ばく(な) 「半ば諦める」  
 名残く(な) 「名残を惜しむ」  
 なぜ 何故(×)  
 謎 「謎を解く」  
 など 等(×)  
 何とぞ 何卒(×)  
 並びに 「(A及びB)並びに(C及びD)」

【に】

にぎやか 賑やか(×)

【ね】

捻挫 ねんざ(参)  
 年齢 年令(参)

【の】

のっとり 「前例にのっとり」 則る(×)  
 伸び伸びと  
 伸びる 「身長が伸びる」  
 延びる 「出発が延びる」

【は】

配膳 「給食を配膳する」  
 はがき 葉書(参)  
 図る 「解決を図る」  
 計る 「時間を計る」  
 測る 「距離を測る」  
 量る 「体重を量る」  
 育む はぐくむ(参)  
 箸 「箸の上げ下ろし」

初めて 「初めて泳ぐ」  
 始める 「勉強を始める」  
 話 「話に花が咲く」  
 話合い、話し合い  
 話し言葉  
 幅 巾(×)  
 貼る 「切手を貼る」  
 判 「A4判」  
 版 「改訂版」

【ひ】

秀でる 「一芸に秀でる」  
 日ごと 日毎(×)  
 日頃  
 膝 「膝を擦りむく」  
 肘 「肘を張る」  
 日付 「日付を入れる」  
 必須 「必須科目」  
 一たび 一度(×)  
 一つ 一つ(×)  
 瞳 「瞳を輝かす」  
 独り 「独り占め」  
 一人一人  
 比喩  
 平仮名

【ふ】

拭く 「床を拭く」  
 二つ 二つ(×)  
 ふだん 「ふだん考えていること」  
 振り仮名  
 触れ合う 「心が触れ合う」  
 雰囲気 「明るい雰囲気」

【へ】

へき地 僻地(×)  
 編成 「教育課程の編成」  
 編制 「学級編制」  
 編製 「学齢簿の編製」

【ほ】

ほか 外(参) 他(参)  
 朗らか  
 保証 「品質保証」  
 保障 「安全保障」  
 程 「程なく」  
 ～ほど 「1時間ほど」

【ま】

紛らわしい  
 幕あい 幕間(×)  
 誠に まことに(参)  
 勝る 「実力が勝る」 優る(×)  
 真面目 まじめ(参)  
 交じる 「仮名が交じる」  
 混じる 「水に塩が混じる」  
 交わる 「友達と交わる」  
 ますます 益々(×)  
 又は  
 まっすぐ 真っ直ぐ(×)  
 全く 「全く関係ない」  
 まで 迄(×)  
 まね 真似(×)  
 回り 「身の回り」  
 周り 「周りの人」

【み】

見いだす 見出す(×)  
 三つ 三つ(×)  
 見付ける 見つける(×)  
 皆く(みな) みんな(×)  
 見る 「絵を見る」

みる 「試してみる」

【む】

向かい 向い(参)  
 迎える 「客を迎える」  
 難しい 「難しい問題」  
 旨く(むね) 「その旨を告げる」

【め】

目 「三日目に出発する」  
 目当て 「学習の目当て」  
 明瞭 「簡潔明瞭」  
 目指す 「優勝を目指す」  
 めでたい 目出度い(×)

【も】

申込み、申し込み  
 持つ 「興味を持つ」  
 もって 「以上をもって」  
 最も 「最も高い山」  
 もっとも 「もっともな御意見」  
 下 「法の下に平等」  
 元 「元に戻る」  
 基 「資料を基にする」  
 基づく 「経験に基づく」  
 物おじ 「物おじしない」  
 最寄り 「最寄りの銀行」  
 もろもろ 諸々(×)

【や】

やむを得ず  
 やり遂げる  
 和らぐ 「気持ち在和らぐ」

【よ】

良い 「成績が良い」  
 善い 「善い行い」  
 よい 「連絡してよい」  
 よかれあしかれ 悪しかれ(×)

【ろ】

ろ過 濾過(×)

【わ】

わい曲 歪曲(×)  
 分かる 判る(×)  
 脇 腋(×) 傍(×)  
 沸く 「風呂が沸く」  
 湧く 「勇気が湧く」  
 僅か わずか(参)  
 煩わしい  
 私く(わたし、わたくし)  
 わたる 「3時間にわたる」 亘る(×)  
 わびる 詫びる(×)  
 割当て、割り当て

---

『準拠資料』  
 ・「新訂 公用文の書き表し方の基準(資料集)」  
 (平成23年6月文化庁)  
 ・「公用文の書き表し方の基準」  
 (平成13年4月文化庁)  
 ・「常用漢字表」(平成22年11月30日内閣告示)  
 ・「文部省用字用語例」(昭和56年12月文部省)  
 ・「言葉に関する問答集」(文化庁)  
 ・「小・中学校学習指導要領解説」(文部科学省)  
 ・「新表記辞典」新訂三版(第一法規)  
 ・「公用文 用字用語の要点」(新日本法規)  
 ・「最新公用文用字用語例集」(平成22年ぎょうせい)  
 ・「例解辞典」(平成22年 ぎょうせい)  
 ・「表記の統一について(参考)」(平成12年、21年、23年仙台市教育局教育センター・指導課)